

2022（令和4）年度後期

弘前学院大学「学生による授業評価アンケート調査」

実施結果報告書

まえがき

学生による授業評価は、大学の教育研究の自己点検・評価の重要な一項目と位置づけられ、とくに「21世紀の大学像と今後の改革方策について」（大学審議会答申1998年）等によって一層の強化が促され、大学設置基準の改正にともない、現在ではこの実施と結果の公表が義務づけられている。

学生による授業評価アンケート調査を全学的に実施するにあたり、設問項目については、各学部で行ってきた調査との連続性・継続性を考慮して、各学部の設問を踏まえたうえで設定した。実施対象は原則として全授業科目としている。これによって本学の教育の有効性を検証するとともに、外部への説明責任を果たすべく、この結果を公表するものである。

目次

- I 「学生による授業評価アンケート調査」実施要項 P2
- II 「学生による授業評価アンケート調査」実施細目 P4
- III 実施結果 P5

Ⅰ 「学生による授業評価アンケート」実施要項

はじめに

「弘前学院大学における学修成果の評価に関する方針（アセスメント・ポリシー）及び、「大学 FD 委員会」規程第 5 条に基づき、本学の教育の質保証に係る取組の一環として、全学部の全授業科目を対象とした学生による授業評価を実施することとし、その実施に関する事項を本実施要項において定める。

なお、実施上の具体的な運用方法、項目等については「学生による授業評価アンケート実施細目」（以下実施細目）において定める。

1. 目的

学生による授業評価をアンケートによって行い、その結果を教員にフィードバックすることによって、授業方法、授業内容の充実・改善を図り、教員の資質向上をめざすとともに、授業方法・内容の充実・改善によって、学生の学修効果の向上を図ることを目的とする。

2. 評価項目、設問内容

アンケートの評価項目、設問内容は次のとおりとする。

- (1) 授業に対する学生の姿勢、取組、自己評価について
- (2) 授業の方法、担当教員の授業に対する姿勢、取組について
- (3) 授業内容について

3. 授業評価アンケート調査の進め方および評価対象授業科目

評価対象授業科目は、本学開講のすべての授業科目を原則とするが、アンケート調査の進め方については、一定期間内における集計、統計的処理、分析等の処理能力を考慮し、複数年に分けて実施するものとする。その具体的な方法は「実施細目」において定める。

4. 調査時期

調査時期は、前期開設科目については前期終了前 2 週間、後期開設科目については後期終了前 2 週間とし、通年開講科目については後期終了前 2 週間とする。

5. 調査方法

各授業科目のアンケートは、Microsoft Forms を使用して学生の回答を回収する。

6. 結果の活用

結果の活用については、評価結果を各教員にフィードバックし、教育方法、授業内容の充実・改善に資するためのFD研修を実施するとともに、各教員は、授業の充実・改善案を作成するものとする。また、授業評価において高い評価を得た教員を顕彰する。以上の活用についての具体的方法は別に定める。

7. 結果の公表及び開示

本アンケート調査結果については「弘前学院大学IR室規程」第2条に基づき、その内容の開示・公表を行うものとする。

また、アンケート調査の全体的集計結果は、本学ホームページに掲載し、学内外に公表するものとする。その具体的項目等については「実施細目」において定める。

授業科目ごとの結果の学生への開示については、IR室において定める。

8. 調査主体

大学FD委員会

9. 実施体制

弘前学院大学FD委員会及び各学部FD委員会

II 「学生による授業評価アンケート」実施細目

はじめに

「学生による授業評価実施細目」は、「学生による授業評価実施要項」に基づき、その実施上の運用方法、項目等について具体的に定めるものである。

1. 授業評価アンケート調査の進め方および評価対象授業科目

(1) 授業評価調査の進め方本アンケート調査は、本学開講の授業科目のすべてを、4か年に分けて実施する。

(2) 初年度・2020年度以降における調査対象授業科目担当授業科目を4か年に分けるが、その場合、年度、学期等を偏らずにできるだけ分散させるようにする。

(参考)履修者数の多い講義、演習科目を中心に、初年度は、前期に講義、演習の任意の2～3科目を、後期も同様に選択する。次年度以降、原則としてこれを繰り返す。

(3) 評価対象除外科目

原則として、実施年度において開講している授業科目のすべてとするが、次の科目はその対象から除外する。

(1) 卒業研究・卒業論文当該科目は独立した授業科目ではあるが、その教育・指導の実態は通常の授業科目とはまったく異なり、教員と学生とが1対1での緊密かつ継続的な指導となることが通常のあり方であり、他の授業科目の評価方法にはなじまない面がある。さらに、アンケートの設問内容もこうした卒業研究の実態とは齟齬を来すものである。(参考)なお当該科目は文学部および看護学部においては必修科目であるが、社会福祉学部においては科目自体が設置されていない。

2. 評価項目、設問内容

アンケートの具体的な設問については、別紙「学生による授業評価アンケート」調査票のとおりとする。

3. 調査方法

各授業科目のアンケートは、Microsoft Forms を使用して学生の回答を回収する。
 以下は、Forms の画面イメージである。

授業評価アンケート

このアンケートは、本学の授業の改善や充実のためにおこなうものです。
 これは成績評価などには全く関係しません。また、個人を特定することもありません。
 さらに、アンケートの内容と結果については、授業の改善や充実のために活用する以外には一切使いませんので、ありのままの率直な感じ方、評価等をお答えください。

こんにちは、事務。このフォームを送信すると、所有者に名前とメールアドレスが表示されます。

* 必須

1. 所属する学科を選んでください。 *

英語・英米文学科

日本語・日本文学科

社会福祉学科

看護学科

2. 科目を選択してください *

4. 結果のフィードバック

評価結果は、授業方法、授業内容の改善に資するため、各教員にフィードバックするが、その項目は下表のとおりとする。

設 問	科目名	担当者名	登録者数	回答者数	回答率%	平均値			選択肢回答率%					
						科目	学部	全学	4	3	2	1	無回答	
1	この授業(講義・演習・実習・実技)によく出席している													
2	シラバスに記されている到達目標や評価方法を読んで知っている													
3	この授業の受講にあたって、事前学修(予習)・事後学修(復習)に取り組んでいる													
4	課題・発表・レポート・試験準備などに取り組んでいる													
5	この授業の内容について、十分に理解することができている													
6	シラバスに記載された到達目標を達成できると思う													
7	教員は熱意を持って授業に臨んでいる													
8	学生の理解度や反応を考慮して授業を行っている													
9	教員は、学生の質問や意見に適切に対応している													
10	教員は、提出したレポートや課題をチェックして学生に返し、授業の理解に役立てようとしている													
11	教員の授業方法や使用した教材は、授業の内容の理解に役立つよう工夫されている													
12	教員の話し方、言葉は聞き取りやすい													
13	この授業で扱う量や難易度は適切である													
14	この授業の進め方のペースは適切である													
15	この授業はシラバスの記載に沿って展開している													
16	教科書、資料(ビデオ、スライド、プリント等)、板書は授業内容の理解に役立っている													
17	この授業から、新しい知識や技能、専門的な考え方、発想を学ぶことができる													
18	総合的にみて、この授業に満足している													

5. 結果の公表

アンケートの全体的集計結果は学内外に公表する。その内容・方法は、設問1～18の各問について、全学・各学部の平均値、設問選択肢の各学部の分布等を、図表・グラフによって視覚化し、ホームページに掲載する。

III 実施結果

1. 調査対象授業科目

「実施要項」および「実施細目」により、全授業科目を4か年に分けて、順次実施することとしたが、今回は2022（令和4）年度後期実施分の結果を示すこととする。

学部ごとの実施科目数・登録者数・回答数・回収率は次表のとおりである。

	実施科目数	登録者数	回答者数	回答率
文学部	40	765	555	72.5%
社会福祉学部	22	327	240	73.4%
看護学部	16	801	589	73.5%
全学部	0	1893	1384	73.1%

2. 設問の内容について

設問では、次の3つの側面から尋ねた。A・B・C各6問、合計18問である。

- A 学生自身の自己評価
- B 授業担当者の授業方法・姿勢に対する評価
- C 授業内容に対する評価

3. 集計結果について

以下に集計結果を示す。

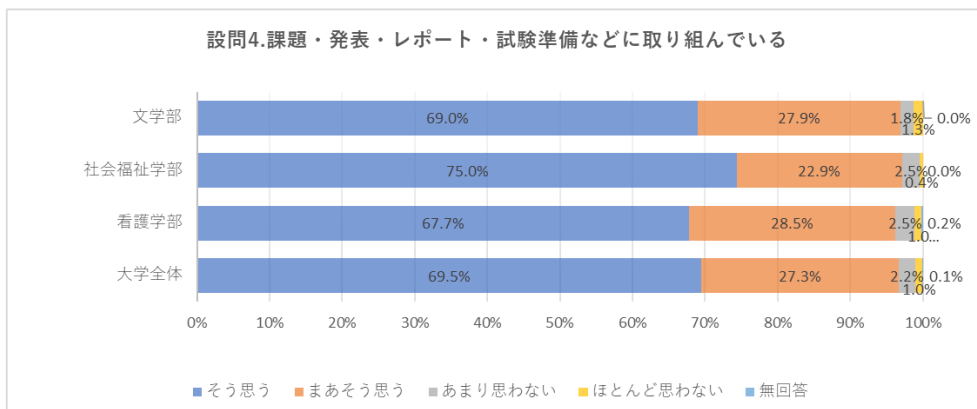
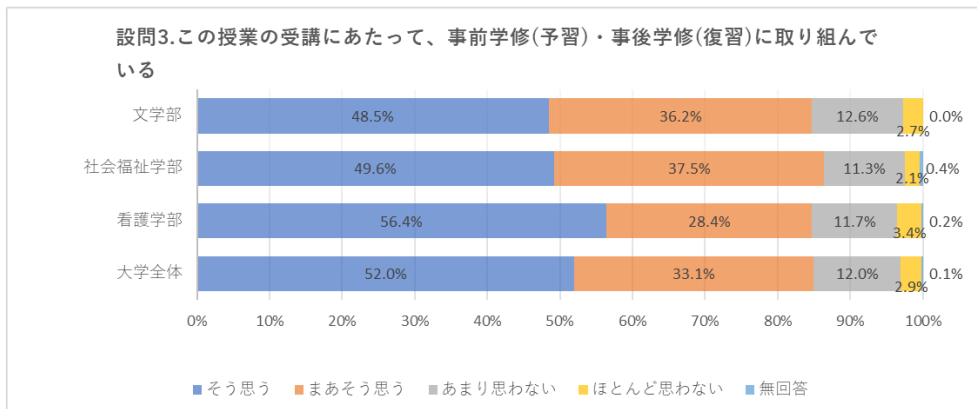
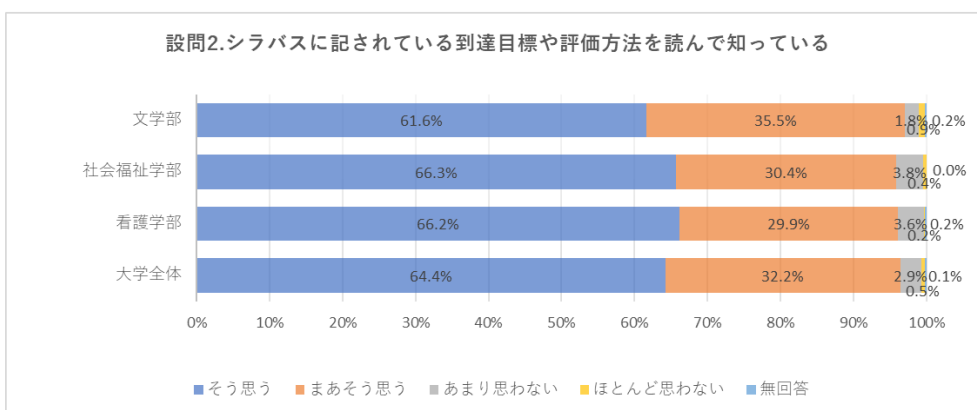
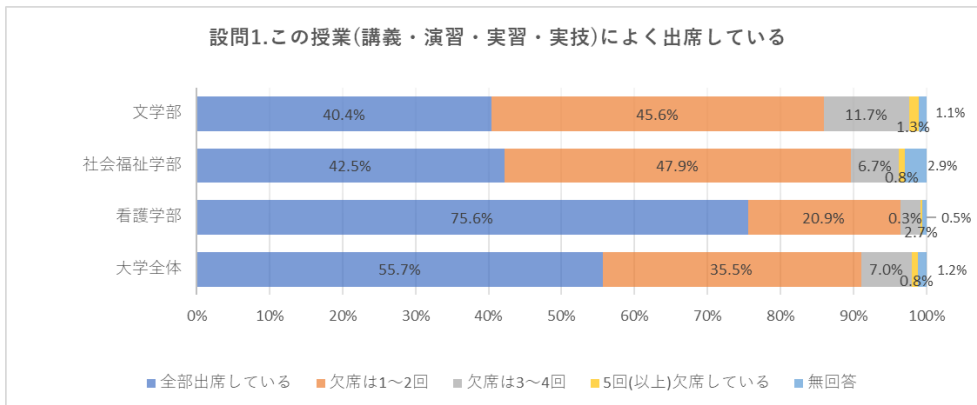
3-1 各設問の平均値（全学、各学部の 2022(令和 4)年度・後期）

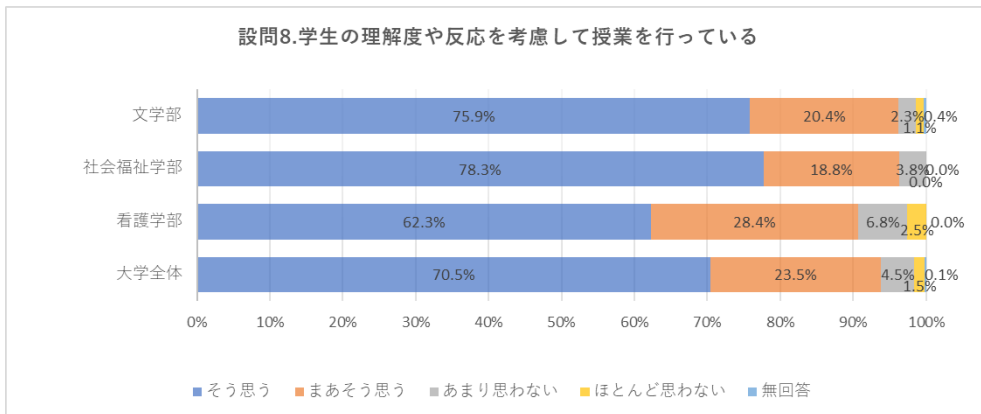
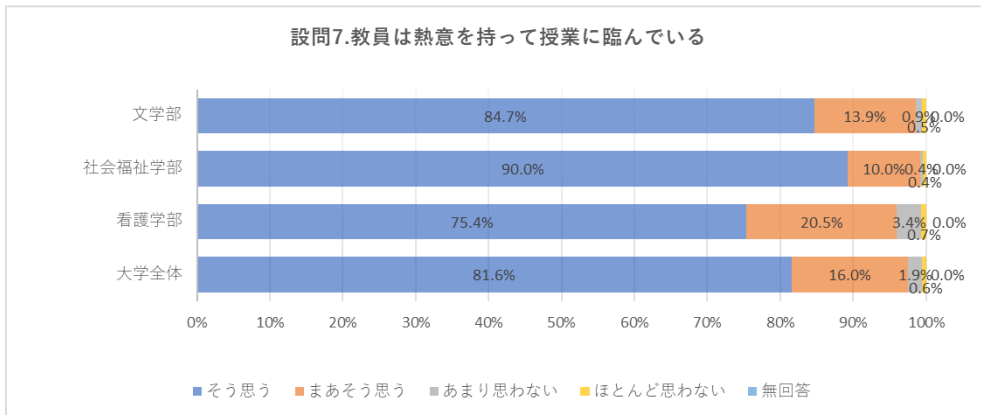
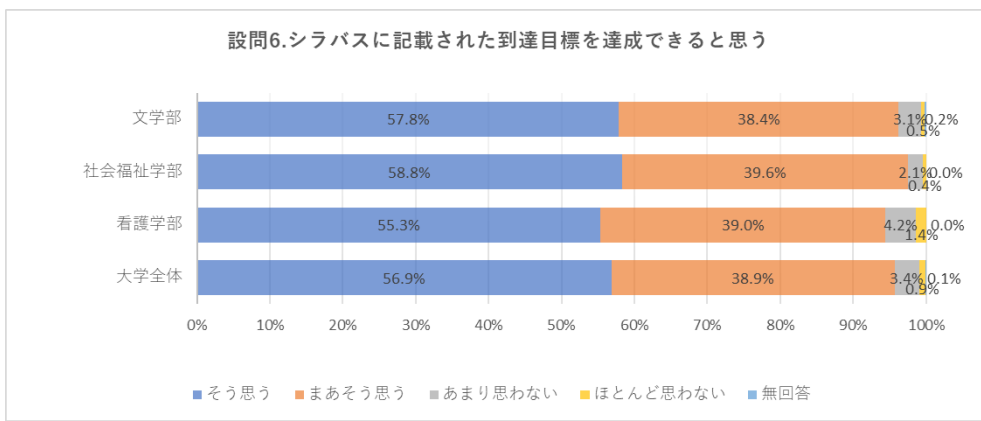
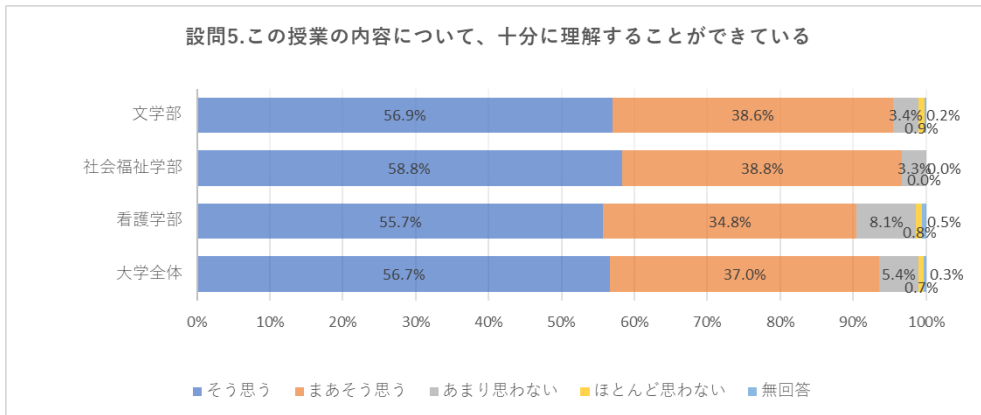
設問	各設問の平均値				
	全学部	文学部	社会福祉学部	看護学部	
1	この授業(講義・演習・実習・実技)によく出席している	3.4	3.2	3.3	3.7
2	シラバスに記されている到達目標や評価方法を読んで知っている	3.6	3.6	3.6	3.6
3	この授業の受講にあたって、事前学修(予習)・事後学修(復習)に取り組んでいる	3.3	3.3	3.4	3.4
4	課題・発表・レポート・試験準備などに取り組んでいる	3.7	3.6	3.7	3.6
5	この授業の内容について、十分に理解することができている	3.5	3.5	3.6	3.4
6	シラバスに記載された到達目標を達成できると思う	3.5	3.5	3.6	3.5
7	教員は熱意を持って授業に臨んでいる	3.8	3.8	3.9	3.7
8	学生の理解度や反応を考慮して授業を行っている	3.6	3.7	3.8	3.5
9	教員は、学生の質問や意見に適切に対応している	3.7	3.7	3.8	3.7
10	教員は、提出したレポートや課題をチェックして学生に返し、授業の理解に役立てようとしている	3.6	3.7	3.7	3.5
11	教員の授業方法や使用した教材は、授業の内容の理解に役立つよう工夫されている	3.7	3.8	3.8	3.6
12	教員の話し方、言葉は聞き取りやすい	3.6	3.7	3.8	3.4
13	この授業で扱う量や難易度は適切である	3.6	3.7	3.7	3.4
14	この授業の進め方のペースは適切である	3.6	3.7	3.8	3.5
15	この授業はシラバスの記載に沿って展開している	3.7	3.7	3.8	3.6
16	教科書、資料(ビデオ、スライド、プリント等)、板書は授業内容の理解に役立っている	3.7	3.8	3.8	3.6
17	この授業から、新しい知識や技能、専門的な考え方、発想を学ぶことができる	3.7	3.7	3.8	3.6
18	総合的にみて、この授業に満足している	3.6	3.7	3.8	3.5

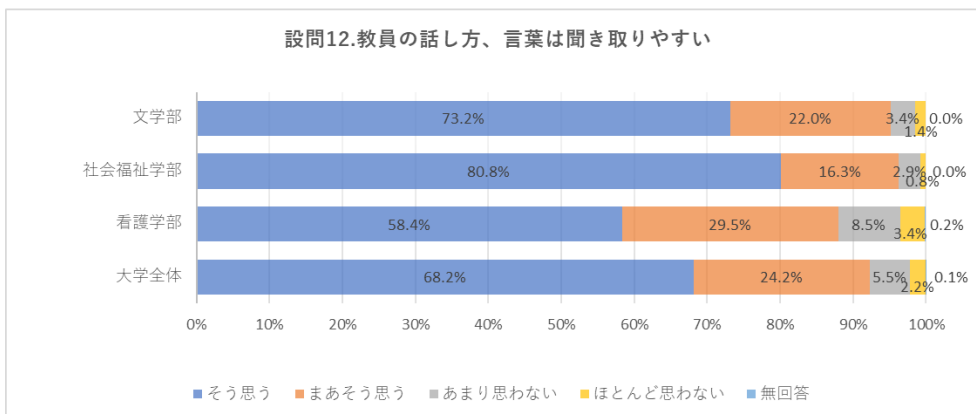
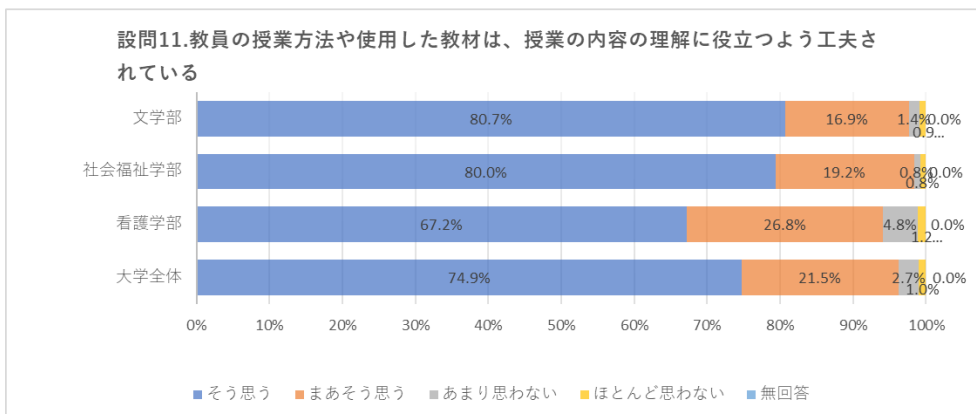
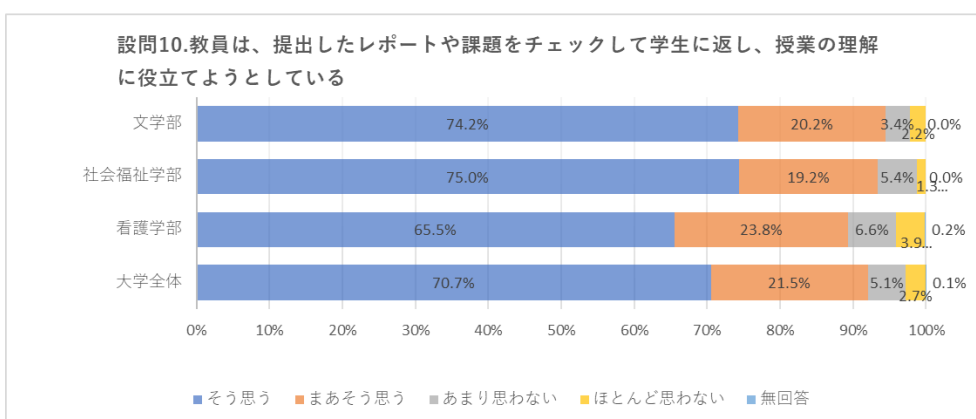
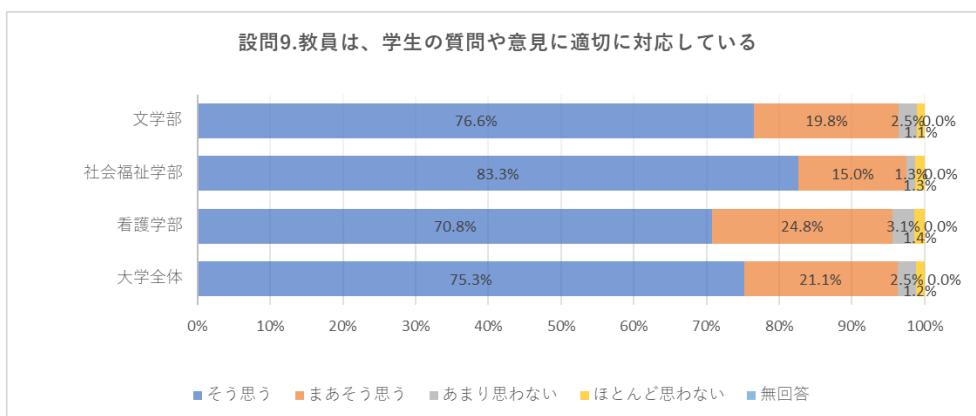
3-2 各設問の回答分布

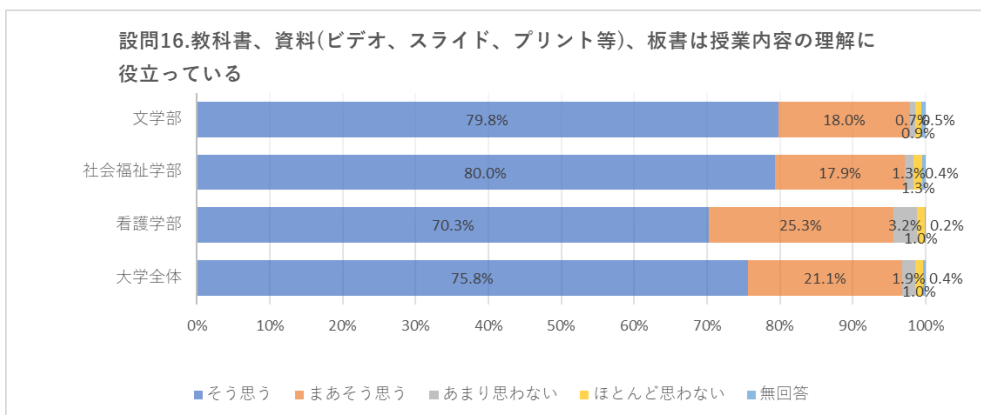
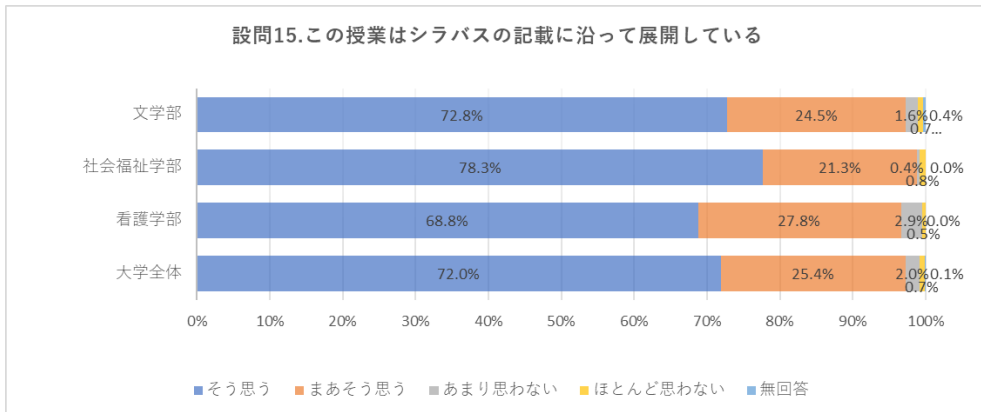
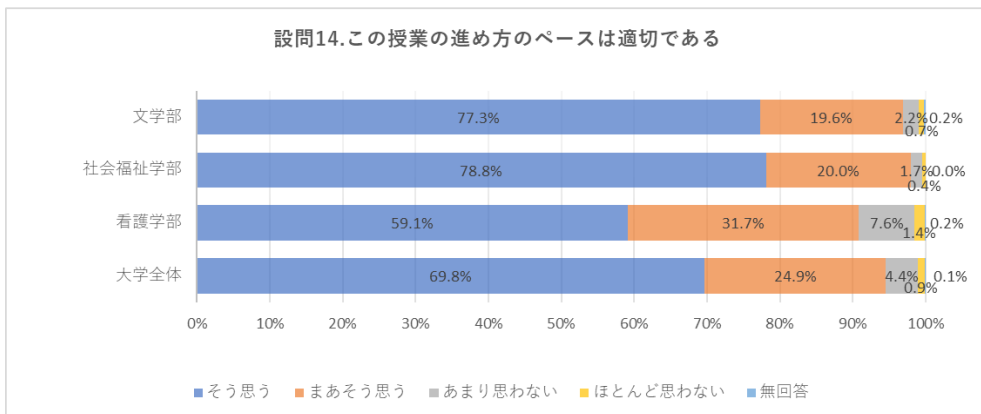
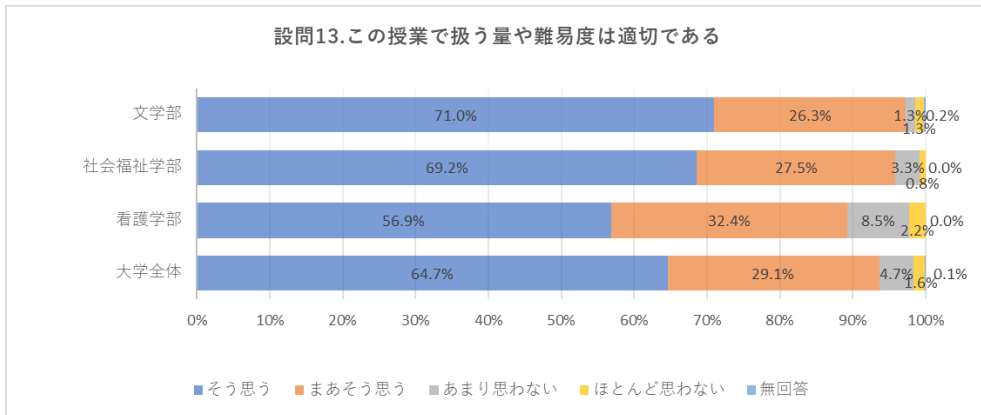
各設問に4つの回答選択肢(4・3・2・1)を設けたが、それぞれの選択肢の回答率(%)を、学部ごとに図表化したものである。A学生自身の自己評価以下の6問は、授業への姿勢や取り組み度についての学生自身の自己評価である。

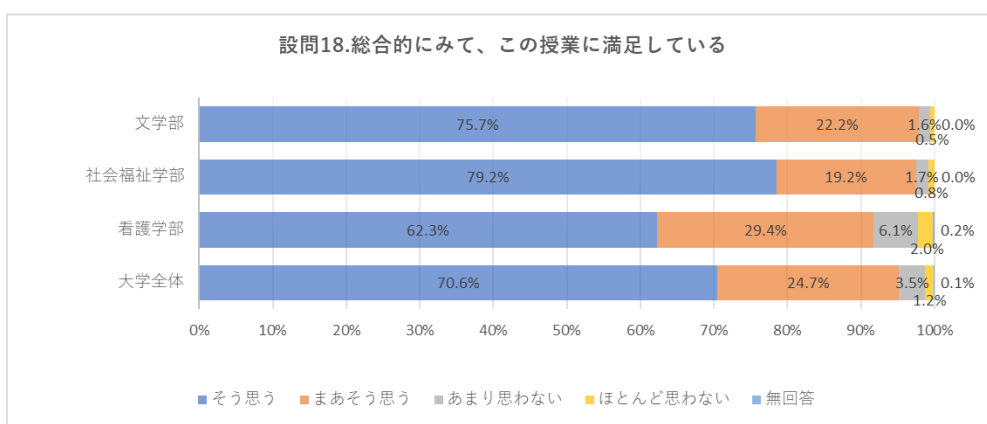
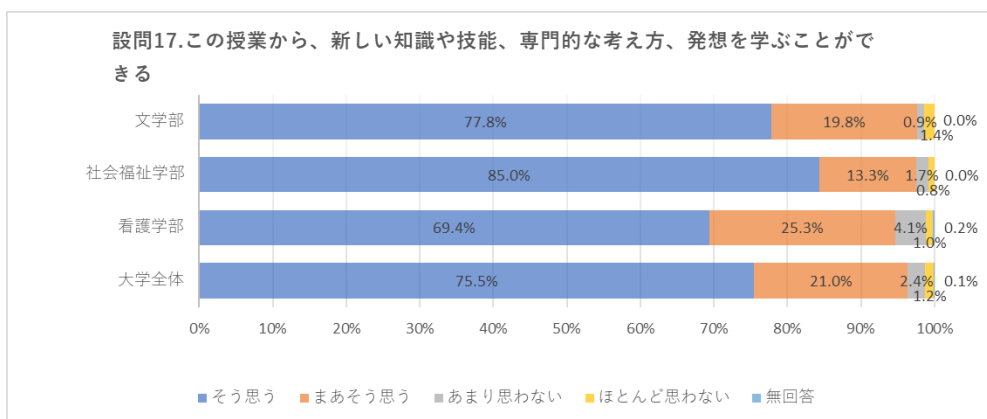
- ・なお、問01の設問に対する回答選択肢は、出席(・欠席)の度合いである。
- ・また、問02以下、最後の18問までの回答選択肢は、肯定的から否定的への段階的評価である。











2022（令和4）年度後期 弘前学院大学
「学生による授業評価アンケート調査」実施結果報告書
編集・発行 弘前学院大学：大学FD委員会
弘前学院大学
〒036-8577 弘前市大字稔町13-1
電話 0172-34-5211（代） FAX 0172-32-8768
2023（令和5）年5月31日発行